



東京都市大学

キャリア形成と主体的学修を基盤とした社会に通用する学修成果の獲得と卒業時の質保証

【取組の概要】

育成する人材像に基づいて体系化された、幅広い評価指標によって「ディプロマ・サプリメント」を開発し、卒業時に身に付けた成果を客観的に社会に提示する。さらに、キャリアガイダンスでの「ディプロマ・サプリメント」の解説、各年次終了時での「プレ・ディプロマ・サプリメント」の提供、「キャリア・ポートフォリオ」の活用、個別学修支援体制の強化等を通じて、学修習熟度を学生と教職員が共有し、学生自らが学びのPDCAサイクルを回す習慣を身に付けることによる自己理解と成長を促していく。

学びの成果の可視化を通じて、育成する人材像である『自ら学び、社会の発展に貢献する、責任感と実践力を持つ人材』の社会への輩出と、3つのポリシーに基づく大学教育改革を実現させる取組である。

【取組のポイント】

- ▶ 「プレ・ディプロマ・サプリメント」を開発・活用することにより、社会に通用する学修成果を、学生が主体性をもって4年間で段階的に獲得するための個別学修支援体制を構築する。
- ▶ 学生が卒業段階で獲得した能力を、「ディプロマ・サプリメント」によって客観的に社会に提示し、活用するための仕組みを構築する。
- ▶ 教育目標を明確化し、初年次教育から卒業研究まで一貫性をもった教育プログラムの再整備を行う。
- ▶ 学修のプロセス、学修成果の評価、学修成果の可視化を通じて、教育の質を保証できるマネジメントシステムを確立する。

【キーワード】

「プレ・ディプロマ・サプリメント」、「ディプロマ・サプリメント」、「キャリア教育」、「卒業研究」、「教学マネジメント」



【人材育成目標】

本学の教育理念「ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる」に則り、育成人材像を「自ら学び、社会の発展に貢献する、責任感と実践力を持った人材」と定めている。2018年10月にはその具体化を図り、大学全体の教育目標を「公正・誠実さと自己研鑽力を持ち、「都市」に集約されるような複合的課題に取り組むことができ、多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する」、全学ディプロマ・ポリシー(全学DP)と全学カリキュラム・ポリシー(全学CP)を、「自ら学ぶ力」「課題を探究する力」「ボーダーを超える力」「協働する力」「実践する力」の5つの項目を基軸に策定している。

【教育上の課題】

中長期計画(アクションプラン2030)に基づき、教育理念に則った教育プログラムの確立と、教育の質を保証するためのマネジメントシステムの構築を目指し、明確な教育目標の設定、クォーター制等の新たな教育制度、ICT活用を含む主体的な学修を促す教育方法の導入、学修環境の整備、成績評価の信頼性向上、FD活動の充実等を進めてきた。一方、学生の授業外学修時間は微増に留まっている。主体的な学修をより促進するために、これらの施策をキャリア形成の意識も涵養しながら入学から卒業まで一貫性のある形で一層連動させて、卒業までに何ができるようになったかを重要な成果指標とした学修成果重視の教育に転換することが必要な状況にある。

【これまでの取組、実績・成果】

<取組>

産業界(企業等)を対象とした「人材ニーズ調査」、卒業後5年・15年を対象とした「卒業生調査」を実施して、育成人材像との整合点を確認し、大学全体の教育目標、全学DP及び全学CPを策定につなげた。また、社会に通用する学修成果とその評価のあり方の検討を行い、定量情報と定性情報により卒業段階での学修成果を客観的に提示する「ディプロマ・サプリメント」と、その在学生版として学修習熟度を学生と教職員が共有する「プレ・ディプロマ・サプリメント」の開発を進めてきた。

さらに、キャリア・ポートフォリオ機能を包含したeポートフォリオ「TCU-FORCE」(TCU-FOR Career Enrollment)の開発とキャリアガイダンスの充実を図り、全6学部から7学科を選定して試験的運用を開始した。また、アセスメント・ポリシーの策定、卒業研究ルーブリックの活用、授業評価アンケートと学生実態調査の改訂実施とその結果の活用、成績評価分布の学内開示、全教職員参加型の「全学FD・SDフォーラム」による課題認識の共有、学生との協働FDの実施等、学修成果の把握・評価、教育改善を通じた教育の質を保証するためのマネジメントシステムの構築に取り組んでいる。



eポートフォリオ「TCU-FORCE」

「TCU-FORCE」を利用した
キャリアガイダンスの実施

<実績・成果>

- 各種調査結果の総合的な分析を踏まえた人材養成面での長所・課題の把握と教職員間での共有、教育目標の具体化
- 学生の自己理解と成長、主体的な学修を支援するツールとして「プレ・ディプロマ・サプリメント」と「TCU-FORCE」を構築
- 卒業段階までに学生が培った学修成果を社会に提示する「ディプロマ・サプリメント」の能力指標・仕様・様式を決定
- 学修行動調査などに基づくIR情報を活用した教育改善PDCAサイクルの稼働

【今後の取組の計画】

<取組の計画>

「プレ・ディプロマ・サプリメント」を活用した個別学修支援の確立と「ディプロマ・サプリメント」を活用した質保証システムの定着に向けて、2018年度末に「ディプロマ・サプリメント」の試験的発行を行う計画としている。また、2019年4月からは、全17学科の新入生が「TCU-FORCE」を利用できるように試行状況を踏まえた検討・準備を行っている。

また、全学DPと全学CPに則ってカリキュラムの再構築を進めている。履修登録単位数の上限見直し、授業科目のスリム化、クォーター開講の促進によって学修時間を確保しながら、初年次教育として「心に学びの灯を点けるプログラム」を2020年度から導入し、段階的な能力育成を目指して1・2・3年次に既存科目との関連を意識した全学共通PBL科目「SD PBL」(Sustainable Development Problem Based Learning)を開講する計画である。並行して、卒業研究ルーブリックの再整備を進め、卒業研究につなぐ学修プロセスとして2・3年生次のカリキュラムへのルーブリック評価の導入を進める。さらに、シラバスの改善、授業内容の開示、教育IRの強化を通じて教育改善のためのPDCAサイクルを回しながら、教育内容と学修プロセス・評価・成果の「見える化」を図り、学修成果を目に見える形で社会に示す仕組みと、社会に通用する学修成果を学士課程で育む仕組みの構築を目指す。

【本取組における成果と社会へのインパクト】

- 卒業までの過程でどれだけの力を身に付けたかを学生と教職員が客観的に把握・評価でき、さらに学修成果・教育成果を目に見える形で社会に示し、共有していくことが可能になる。
- 「(プレ-)ディプロマ・サブリメント」の開発と活用を通じて、専門性の高い学部で実践的に学ぶ学生と、支援する教職員との連携モデルを構築し、多くの大学に導入可能なモデルとして広く波及させることができる。

【本取組の質を保証する仕組み】

以下の仕組みにより、本取組の質保証と向上に努めている。

■ 運営組織による自己評価

本取組を運営している教育開発機構で、未達事項の有無、数値目標達成状況の確認と課題抽出を行い、実行方針、スケジュール、業務分担の再確認と見直しを行うことで、PDCAサイクルを回している。

■ 外部評価委員からの意見や助言の聴取

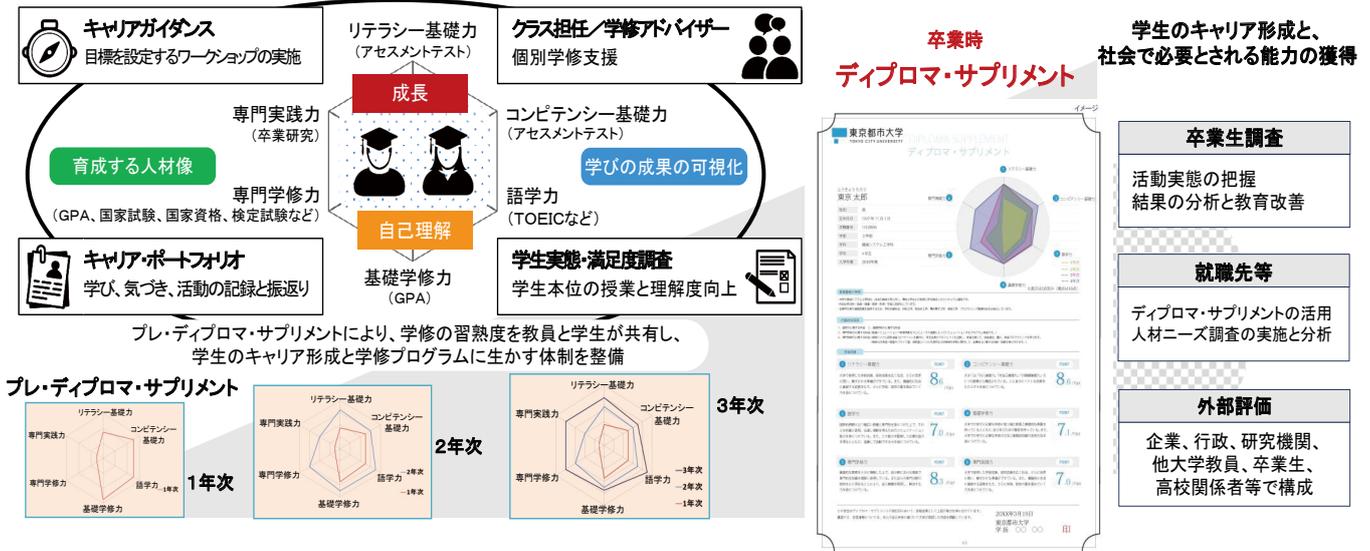
教育外部評価委員会(大学、行政、企業、研究機関、卒業生、高校関係者で構成)を開催し、客観的な助言と評価を得ている。委員全員の確認と合意を経て実施結果をまとめ、本取組の推進に反映している。

■ 学外への情報発信

APシンポジウム(2017年、2018年)の開催、他選定校とのシンポジウム共催、各種の教育研究集会での取組報告、事業報告書の作成と公開、AP用サイト(<http://apuer.tcu.ac.jp/>)での情報発信等を通じて、学外に対して本取組の「見える化」を図っている。

■ FD・SD活動

「全学FD・SDフォーラム」では、ステークホルダーに対する調査結果、各学部等における学修行動調査と授業評価アンケートの分析結果や教育改善への取組を共有する等、本取組で得られた客観的なデータを活かしてFD・SD活動を進めている。



テーマV
卒業時における質保証の取組の強化
東京都市大学

具体的な実施計画における指標	2016年度 (起点)	2017年度 (実績)	2019年度 (目標)
学生の成績評価(GPAの平均)	2.40	2.32	2.75
学生の授業外学修時間(1週間当たり)	10.0 時間	14.5 時間	20.0 時間
進路決定の割合	94.0 %	95.3 %	96.0 %
事業計画に参画する教員の割合	50.0 %	100 %	100 %
質保証に関するFD・SDの参加率	90.0 %	99.7 %	100 %
卒業生追跡調査の実施率	20.0 %	11.5 %	30.0 %